



ゴーヤを育て自然に温度を下げる



優しいまなざしを向け、富山市に住む主婦の安井邦子さん(74)が、ゴーヤにじょうろで水をやる。日差しを遮る「緑のカーテン」を育てており、6月初旬に15センチほど植えた苗は半月で70センチまで伸びた。水やりは夏にかけての日課だ。

緑のカーテンは、アサガオやゴーヤなど「つる性植物」で窓や壁を覆い、日差しを遮る。葉から水分の蒸散もあり、部屋の中や壁などの温度上昇を抑える効果がある。

安井さんの自宅の居間は、南向きの壁が一面ガラス張りとなっている。夏は強い日差しが照り付け、気温が上がる。自然のやり方で少しでも快適に過ごそうと、6年前から緑のカーテンを始めた。「室内の温度も1度は下がると思います。見た目にも涼しい」と魅力を紹介する。

プランター三つに苗を2本ずつ植え、窓を覆うように横3・6センチ、高さ3センチのネットを張る。7月の始めにはツタがネット全体に広がるという。豊かに茂った葉や建物とのバランスが認められ、富山市が地球温暖化対策を目的に行う「緑のカーテンコンテスト」で、2018年に優秀賞を受けている。

部屋からはゴーヤの実が見え、育つのが楽しみの一つ。ゴーヤの実はひと夏で約20個収穫でき、チャンプルーはもちろん、かき揚げや甘酢漬けて味わう。ジャムも苦みがあって滋味深い。「暮らしが豊かになり、楽しみが広がります」と笑みをこぼした。



1_ゴーヤの苗に水やりをする安井さん。朝夕に水をやる 2_ぐんぐんと育ち、半月ほどで50センチ伸びた 3_6月中旬には窓から少しゴーヤが見える 4_かわいらしい花を咲かせる 5,6_昨年のグリーンカーテン。部屋からは実の成長が見ることができる。ツタが窓全体を覆い、豊かな葉を茂らせる

安井邦子さん
夫と二人暮らし。6年前から緑のカーテンを育てている。ゴーヤを育て始めてから、ゴーヤ料理も大好きになった。

